

2022 年度京都府理学療法士会定時総会議事録

日時 2023 年 6 月 25 日（日）14：00～15：30

場所 京都大学医学部人間健康科学科 杉浦ホール 対面開催（ZOOM による傍聴）

司会 荻谷

議長 大島

書記 石井

荻谷事務局長より開会宣言

* 京都府理学療法士会 麻田会長より挨拶

* 参議院議員の田中先生よりご挨拶

* 門川市長のメッセージ披露

●2022年度士会会長賞表彰

南角表彰審査委員長より2022年度会長賞受賞者3名を発表

小牧 有貴（コマキ ユキ）先生（職能部 伊根町役場保健福祉課）

豊島 晶（トヨシマ ショウ）先生（症例発表部 洛西シミズ病院）

松下 路子（マツシタ ミチコ）先生（症例発表部 京都大学医学部附属病院）

代表して豊島晶先生に麻田会長より表彰状を授与

●議長、書記の選出

議長選出：大島洋平（京都大学医学部附属病院）

書記選出：石井雄也（蘇生会総合病院）

●定足数確認

総会員数 2,905名 （総会員数の過半数：1,453名）

出席者 34名

委任状 1,878名 計1,912名

以上の通り総会設立の必要数を満たす。

議長の成立宣言により議事に入る。

【審議事項】

●第一号議案 2022年度事業報告審議

会長総括

1. 対面研修も試行しながら、Web 環境を利用した事業を進めた。
2. 浮き彫りとなった課題として、新入会者数を退会・休会者が上回り全会員数が微減し、会員比率の低下傾向が鮮明になり危機感を強く持った。
3. 【事務局】メール審議の増加や問い合わせ、役員とのやりとり等、事務員の事務量が増加している。事業範囲が広がり新たな分野が加わる事で業務が増加している。事務作業

の簡略化を進める必要性を感じている。

4. 【社会局】 職能部の事業量の増加及び対応範囲の広がりがあり、業務負担が多くなった1年であり次年度の課題となった。公益事業部・保険部・災害対策部は会員にとっても対外的役割としても重要な部門になっており、次年度以降も力を注いでいきたいと思っている。
5. 【地域局】 地域局支部事業は支部間の差は出ましたが事業が開始された。既存組織との情報共有や協働など次年度以降、地域事情を加味しながら進めていく。
6. 【学術局】 新生涯学習システム稼働1年目となり、説明会開催など新システムの啓発に努めた。対面研修の機会も多くなり Web 開催とのすみ分けも進んでいる。新システムは e-learning が占める割合が多くなることから、新システムに沿った組織作りが課題であるが、会員の求めているものを具体化できる組織作りを進める。
7. 【京都府リハビリテーション三療法士会協議会】
事業としては、北部地域における研修及び情報交換の機会が多く企画され充実した活動になっている。三療法士会役員会も各会の情報交換や京都府事業協力など安定した活動となってきた。今後は本協議会による事業推進(補助金・基金関連)を積極的に検討したい。
8. 【委員会】
エスカレーターマナーアップ推進委員会では大学生対象のキャッチフレーズワークショップを開催し優秀作品をポスターにして京都市営地下鉄駅構内等に掲示していただいた。新聞広告も引き続き実施していく。他の委員会も順調に事業が行われている。

各局より事業報告

- * 事務局：(荏谷事務局長より)総務部、財務部、広報部 各部の報告
- * 社会局：(江平社会局長より)保険部、職能部、公益事業部、災害対策部の報告
- * 学術局：(建内学術局長より)生涯学習部、新人教育部、新人発表部、北部研修部、会誌編集部、学会部、その他(理学療法士講習会等)の報告
- * 地域局：(田後地域局長より)ブロック化事業を主とした活動内容の報告
- * 委員会報告：(荏谷事務局長より)表彰審査委員会、選挙管理委員会、認知症対策委員会、地域包括ケア委員会、スポーツ活動支援委員会、エスカレーターマナーアップ推進委員会の報告

●第二号議案 2022年度決算報告

南角財務担当理事より、資料 P.9 を参照にて報告、荏谷事務局長より P.11 を参照にて特別会計報告

【第一号・第二号審議事項について挙手にて賛成多数 承認】

●第三号議案 選挙管理委員の選出について

南角選挙管理委員長より説明

公募を行ったが、立候補者はなし

理事会推薦として、京都橘大学の木村智子先生、佛教大学の次郎丸卓三先生、介護老人保健

施設がくさいの岡徹先生の3名を推薦

【第三号議案について挙手にて賛成多数 承認】

【報告事項】

●第一号報告 監査報告

市橋監事より監査報告（P12参照）

●第二号報告 事業計画報告

麻田会長より事業総括および各局の計画報告

パワーポイント提示にて報告

1. 事務作業の簡略化とともにペーパーレス化の推進、事務員増員による事務負担の軽減
2. 明朗快活な財務管理・運営
3. LINE、SNS での情報発信、デジタル化の推進
4. トリプル改訂に向けた情報収集と発信
5. 小児・在宅ケア・管理職ネットワークミーティングの推進
6. 公益事業による府民への発信・協働
7. 継続的な災害対策
8. 11支部活動の活発化・近隣施設との顔の見える関係づくり。地域による特性や要望を優先的に事業展開する。
9. 生涯学習部・北部研修は対面で有料開催
10. 新人教育部研修は対面・Web 研修で地域医療介護人材確保事業を充当し無料開催
11. 新生涯学習制度の周知
12. 第33回京都府理学療法士会学術大会・会誌編集・理学療法技術講習会は例年通り実施
13. 糖尿病推進委員会・スクールトレーナー委員会が活動を開始
14. 京都府リハビリテーション三療法士協議会は補助金事業を中心に地域局と協力して進めていきたい。
15. 理学療法士連盟との協調・協働

また、事業費割合を円グラフに提示して説明頂いた。

新型コロナウイルスが2類から5類へ移行し、各事業も対面開催が増加してくるが、今回の総会も Web 傍聴を設けた。この3年間に得られた Web 環境を活かしつつ、効果的な事業運営に繋げていく。戻るのではなく「新しい環境適合と進化」を念頭に令和5年度事業を進めていきますという言葉で締めくくられた。

●第三号報告 2023年度予算案

南角財務理事より P9 予算案の説明

●第四号報告 新理事承認報告

麻田会長より報告取下げと報告

●第五号報告 会員名簿の非公表について

井口総務理事より説明

●第六号報告 次年度以降の総会資料公開方法の変更について
井口総務理事より説明

質疑応答

第四号報告について

Q：並河先生

新理事承認について今回取下げられたが、実際的には推薦されているということはそれなりの仕事を考えて推薦されたと思う。取下げなくても内規で動いて頂くことを考えているのか。

A：麻田会長

選挙が最善と考えていたが、業務量が増加している中でなんとか推薦したいと考えていたが、働いて頂く環境としては変わってしまうが、推薦予定者には承認も得ている。ただ、法制上報告事項ではなかったため、このような形とさせていただいた。業務としては補佐をしていただくという形で承認を得ているので議事録等で確認をしていただけるとありがたいと思います。

●議長団解散

議長は以上をもって議事を終了した旨を述べ、15：30に閉会した。

堀江副会長より 閉会の挨拶